

ペット小売業界における地球温暖化対策の取組 ～ 低炭素社会実行計画 2017年度実績報告～

平成31年2月

一般社団法人全国ペット協会

目次

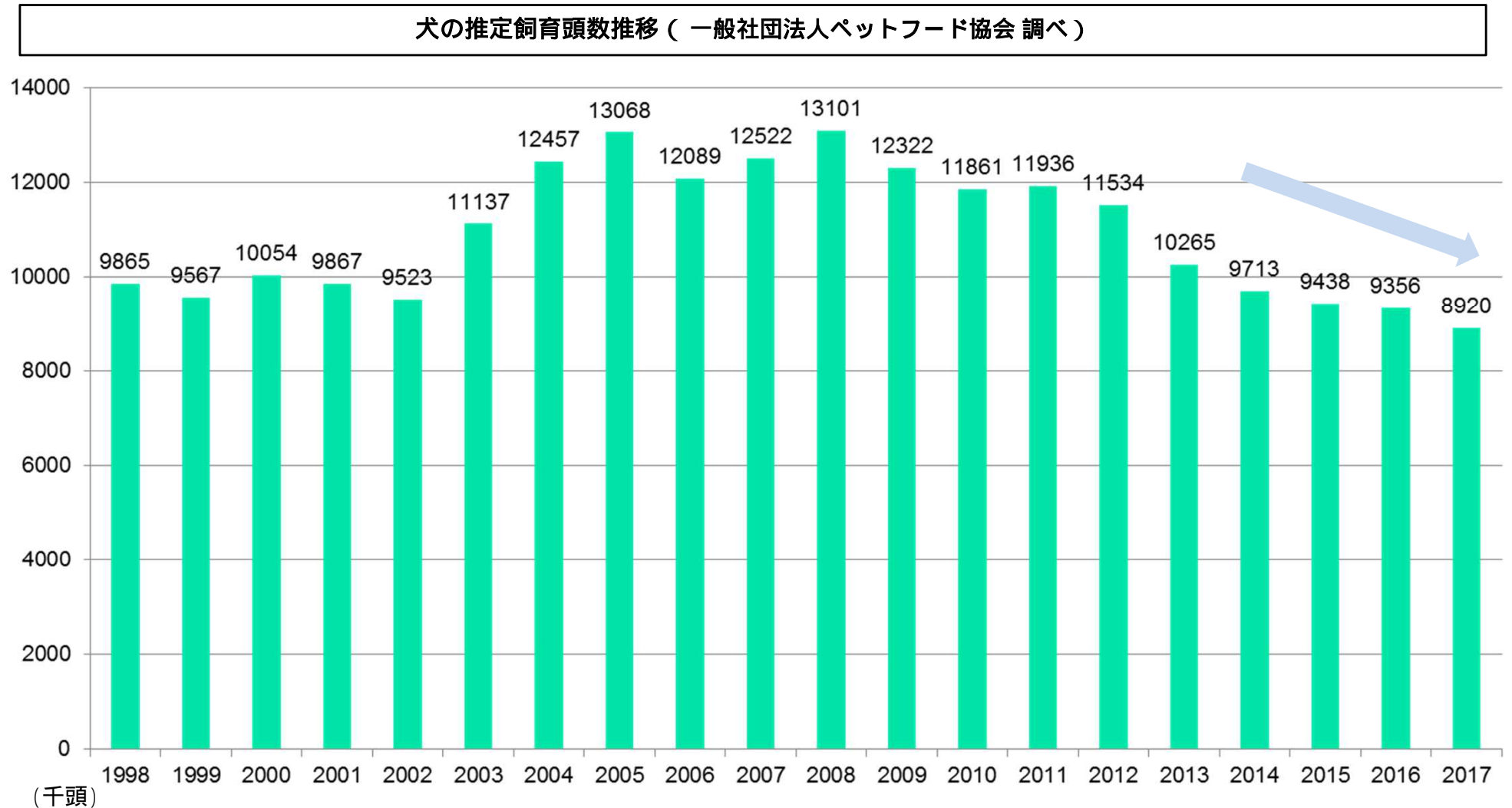
- 1 . ペット小売業の概要
- 2 . ペット業界の現状
- 3 . ペット小売業界の「低炭素社会実行計画」概要
- 4 . 2017年度の取組実績
- 5 . その他の取組

1. ペット小売業の概要

- ペット小売業
 - ペットやペット用品の販売業
- 業界の規模
 - 事業所数：20,660事業所（零細企業が大多数）
 - 動物愛護管理法にもとづく第一種動物取扱業の「販売業」登録数（H30.4.1）
 - 市場規模：約1,200億円
 - 観賞魚や昆虫なども含む動物全体の生体市場規模（H19、(株)野生社調べ）
- 「ペット小売業における低炭素社会実行計画」 参加企業
 - 14社 240事業所

2. ペット業界の現状（1）

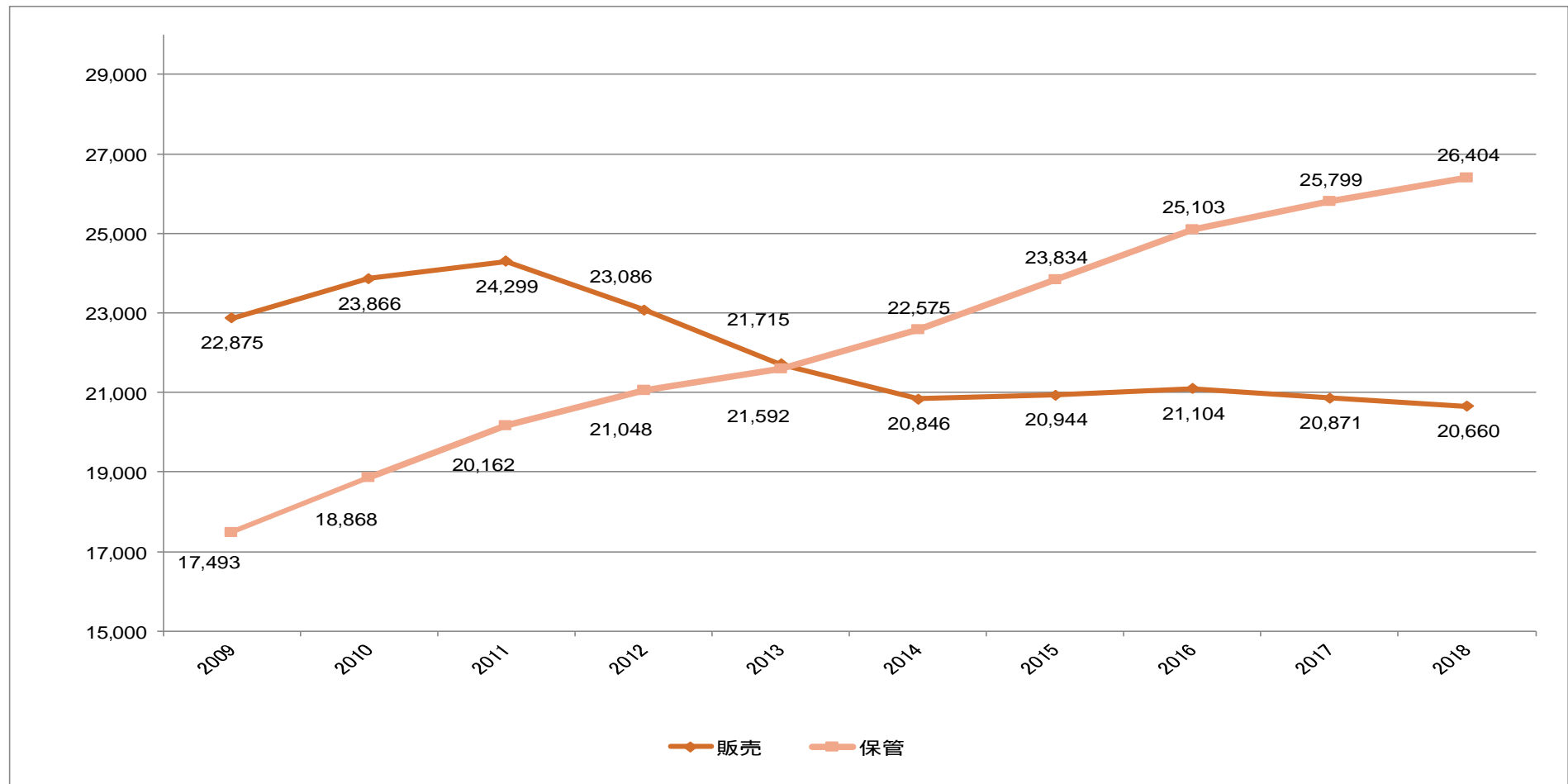
法規制などによりペット小売業者の数は減少傾向にある。
ペット飼育頭数の減少に加え、さらなる法規制も見込まれており、厳しい市場環境にある。



2. ペット業界の現状（2）

第一種動物取扱業のうち、「販売業」は減少傾向にある

環境省 動物取扱業の登録状況



3. ペット小売業界の「低炭素社会実行計画」概要

- 目標指標：CO₂ 排出量原単位
 - 電気使用量から算定したCO₂ 排出量を店舗床面積・営業時間で除して算定
 - － 2020年目標（2014年12月策定）
CO₂ 排出量原単位を2012年度と比較し同水準以下とする
 - － 2030年目標（2015年7月策定）
CO₂ 排出量原単位を2012年度と比較し同水準以下とする
- 目標策定の背景
 - － ペット小売業は零細な事業所がほとんど。実施可能な削減策には限りがある
 - － 自主行動計画の最終年（2012年）には、零細事業所でも可能な削減策を実施済み
 - － 以上から、2012年度の実績値と同水準以下を目指すことは、ペット小売業の最大限の努力を踏まえた結果と考えている

3 . 2017年度の取組実績 (1)

- 2017年度の実績値

- 生産活動量 (万 m^2 ・万h) :
 - 190 (基準年度比 10.43%、2016年度比 18.1%)
- CO 排出量 (万t-CO₂) :
 - 0.524 (基準年度比 3.1%、2016年度比100.8%)
- CO 原単位 (万t-CO₂/万 m^2 ・万h) :
 - 0.00276 (基準年度比100.4%、2016年度比123.2%)

- 目標達成に向けた今後の進捗率の見通し・課題

- 毎年、当該計画への参加事業所数に変更があるため、生産活動量とCO 総排出量に変化が生じている
- 当該年度は、店舗の床面積は増加傾向にあったが、営業時間の短縮が進んだ結果、生活活動量が減少した
- 今後の課題としては、同計画に参加いただける事業所を、可能なかぎり増やしていくこと

4 . 2016年度の取組実績 (2)

事業所における取組事例 (%は取組率)

- 省エネ設備の導入

－ 省エネタイプのエアコン	25.0%
－ 照明器具のLED化	58.3%
－ 遮熱フィルム・カーテンの導入	16.7%
－ 電気使用量モニター	16.7%

など

- 省エネ活動

－ 冷暖房の適正な温度設定	75.0%
－ エアコンフィルターのこまめな清掃	66.7%
－ 電気器具のこまめなon/off	50.0%
－ 照明本数の適正化	66.7%
－ 店舗スタッフへの節電取組教育	25.0%
－ 営業時間の短縮	50.0%

など

5 . その他取組（ 1 ）

- 情報発信の取り組み
 - － 加盟店に向けた情報発信（業者向け）
 - 会報誌による情報発信
 - － 参加事業所からの情報発信（一般向け）
 - 各事業所では「EcoShop」
 - ステッカーを店頭に掲示



5. その他取組(2)



- 業者向けの取組み(予定)
 - － ペット小売業者向けの省エネ対策テキスト
 - 東京都と作成をすすめている。
 - 取組み店舗だけでなく、全会員企業へ配布する予定